

本日は、仁科記念講演会にお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。ただいまご紹介いただきました、公益財団法人仁科記念財団の理事長の梶田です。

さて、本日開催されます仁科記念講演会は、当財団の主要な活動の1つであり、仁科芳雄博士の誕生日にあたる12月6日前後に、著名な物理学者を招聘し、最新の研究成果を多くの皆様にお伝えすべく、毎年開催しており、今回が第70回となります。

本日の講演会は、第70回の節目ということも意識して、メインテーマを「仁科芳雄と素粒子物理学の百年」としております。京都大学の伊藤憲二先生は、「励起 — 仁科芳雄と日本の現代物理学」という上下2巻の本を執筆されました。本日は「仁科芳雄と日本における量子物理学研究」と題してお話をいただく予定です。また東北大学の日笠健一先生は理論の研究者として長年素粒子物理学の研究をされてきました。本日は「素粒子の常識と非常識」と題してお話しをいただく予定です。両先生のお話しは、大変興味深いものになるのではないかと期待しております。

では、本日の仁科記念講演会、よろしく願いいたします。